

2023年度

シラバス

放射線学科編

（4年生用）

シラバス（Syllabus）の活用について

本学は、建学の理念として「独創一理」を掲げています。この理念は「独創的な学究精神」を堅持して真理を探究し、おおらかな誇りと感激性を持った個性豊かな人格を形成する」ことにあります。医療科学部は、この考えのもと、それぞれの学科の専門的な知識や技術を教育することで、次世代を切り拓く力となる幅広い教養を育みます。強い信念をもって課題に取り組む能力、人間の生命を尊重する倫理観、そして責任感と協調性。皆さんがそれらを兼ね備えた先進科学が創造できる心豊かな「知的医療人」として躍進することを目指しています。

このシラバスには、本学部学科が育成する医療人のために必要なアドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）が記載してあります。未来の医療人への道標として、学生諸君にできる限り判りやすいように、学修目的と到達目標、授業概要と授業計画、学修課題と学修内容、評価方法と評価基準などが記載されています。学生諸君は、これをよく閲覧して主体的に効率良く学修することを心掛けてください。また、自分が履修している科目を良く理解し幅広いものにするためには、他の科目との関連性を意識し、習得した知識、技術、さらには考え方を充分活用して、新たな課題を見つけること、そしてそれらを解決できるように学修することを推奨します。

学生諸君が進むべき道を見失うことがないように、このシラバスを学修の道標として活用してください。学生諸君が充実した学生生活を送れることを教職員一同、願っています。

2023 年 4 月

医療科学部長 齋藤 邦明

医療科学部の教育理念・目標・ポリシー

1. 教育理念

医療科学部は、本学の建学理念である「独創一理」を踏まえ、人間の生命を尊重する倫理観と心豊かな幅広い人間性を培い、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の知識・技術の修得をもとに、科学的探究心を養い、それぞれの分野で社会に貢献できる人材を育成する。

2. 教育目標

- 1) 人間の健康と生命を護る役割を自覚して着実に研鑽をつみ、社会の変化や医療の進歩に対応できる人材を育成する。
- 2) 自ら課題を発見して解決する探求心を養い、医療技術の発展に寄与できる人材を育成する。
- 3) 医療に従事する者としての責任感と協調性を養い、専門的素養をもとにチーム医療に貢献できる人材を育成する。

3. 医療科学部の3ポリシー

医療科学部は、各分野の専門的な知識や技術を教育することはもとより、心豊かな人間性と幅広い教養を育み、強い信念をもって課題に取り組む能力と人間の生命を尊重する倫理観を備えた人材を育成します。それらを基盤として、責任感と協調性をもって患者中心の専門職連携を実践できる「医療人」を育成したいと考えています。また、海外の医療系諸大学との交流を活発に進め、国際的な視野を持った人材の育成も目指しています。

3.1. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

医療科学部では、本学が育成しようとする「医療人」となることを目指す入学者に対して、次のような素養を求めています。

(知識・理解・思考・判断)

1) 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(態度・興味・関心・意欲)

2) 生命に対する健全な倫理観をもち、弱者に対する奉仕と思いやりの精神をもっている。

3) 医療や生命科学に対する関心が高く、この分野に貢献したいという目的意識をもっている。

4) 生涯にわたり自己啓発・自己学習を継続する意欲をもっている。

(技能・表現)

5) 誠実さと協調性をもって他者と接することができる。

6) 自分の考えや行動に責任をもち、それを相手に明確に示すことができる。

以上の素養について、一般入試、センター利用入試およびセンタープラス入試では、各選抜試験で上記 1) を評価し、調査書で上記 2) ～ 6) を評価しています。専門職連携の適性を重視したアセンブリ入試では上記 1) ～ 6) について総合的に評価をしています。また、推薦入試では上記 2) ～ 6) に重きをおきますが上記 1) の評価も加味します。医療科学部では、このようにさまざまな選抜試験を行い、多面的・総合的に評価します。

禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

3.2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療科学部の教育目標として、以下の 3 点を掲げています。

- 1) 人間の健康と生命を護る役割を自覚して着実に研鑽をつみ、社会の変化や医療の進歩に対応できる人材を育成する。
- 2) 自ら課題を発見して解決する探究心を養い、医療技術の発展に寄与できる人材を育成する。
- 3) 医療に従事する者としての責任感と協調性を養い、チーム医療に貢献できる人材を育成する。

この 3 つの目標を念頭に、医療検査学科、臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科および医療経営情報学科において、それぞれの特性を活かした教育課程を編成しています。特に項目 3) の推進のために、藤田医科大学の医学部、医療科学部、保健衛生学部および看護専門学校が連携してグループ別に特別教育活動を展開する「アセンブリ」を導入しています。

3.3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

（知識・理解）

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

（思考・判断）

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

（興味・関心）

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

（態度）

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

（技能・表現）

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
- 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。

4. アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）

藤田医科大学 医療科学部および保健衛生学部は、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関レベル（学部）、教育課程レベル（学科・専攻）、科目レベル（個々の授業）の3段階で学修成果を評価する方法を定めます。

1) 機関レベル

学生の志望進路（資格・免許を活かした専門領域への就職率および進学率等）から学修成果の達成状況を評価します。

2) 教育課程レベル

学部・学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。また、学年ごとの単位取得率・成績分布の状況から、各学年全体の学修態度と学修傾向を評価し、1年次から4年次までの基礎から専門科目の個々の単位修得状況を学修成果として評価します。

3) 科目レベル

授業等科目のシラバスで提示された成績評価および学修目標に対する達成状況等の結果から、科目ごとの学修成果を評価します。

【評価指標】

レベル	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル (学部)	- 各種入学試験 - 新入生アンケート	- 休退学状況（休退学率） - 学生生活・学修生活実態調査（2年次と4年次） - 授業評価アンケート	- 卒業率 - 学位授与率 - 就職率 - 進学率 - 学生の動向追跡調査分析 - ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生の自己評価・教員評価・就職先施設による評価） - 卒業後アンケート
教育課程レベル (学科・専攻)	各種入学試験	- GPA - 成績分布状況 - 進級率	- GPA - 資格・免許取得状況 - 単位取得状況 - 国家試験合格率、合格者数
科目レベル (個々の授業)	入学後語学力確認テスト	- 成績評価（テスト、ルーブリック） - 授業科目別到達度自己評価	

【データの収集と分析・改善】

I R推進センター・教務委員会が上記データを収集し分析・検討を行います。分析結果は、全学教学運営委員会に報告し、各学科・部署にて継続的かつ効果的な教育の改善等に活用します。

放射線学科の3方針

1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

藤田医科大学医療科学部のアドミッションポリシーに基づき、放射線学科では次のような人を入学者として求めます。

- 1) 医療人が身につけるべき基本的な礼節や他者への心遣いを自覚し、常にその実践を心がける人
- 2) 医学、医療科学、薬学、理工学を融合する診療放射線技術学の学修に必要な幅広い科目に関する基礎学力を有している人
- 3) 診療放射線技術学に高い関心をもち、診療放射線技師として医療を必要とする人々のために優れた専門性をもって貢献したいという崇高な志を有している人
- 4) 自ら積極的に学び、診療放射線技術学に関する高度な知識や技術の習得に努力を惜しまない人
- 5) 周囲の人と協調性をもって良好な関係を築き、他者を思いやるコミュニケーションを実践できる人

選抜方法については、医療科学部のアドミッションポリシーに準じます。放射線学科では、基礎的学力の評価として一般入試において外国語（英語）を必須とし、数学、理科（物理・化学・生物）を科目選択式とした選抜試験を実施しています。センター利用入試では、外国語（英語）と数学を必須とし、理科（物理・化学・生物）を科目選択式とした選抜試験を実施しています。センタープラス入試では、外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物）からの科目選択式の選抜試験を実施しています。推薦入試では、小論文と個人面接による選抜試験を実施しています。アセンブリ入試では、国際適性試験、科学適性試験などの一次選抜試験を実施し、さらに専門職連携の適性を重視した二次選抜試験を実施しています。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

藤田医科大学医療科学部のカリキュラムポリシーに基づき、放射線学科ではチーム医療の一員として自らの専門性を発揮し、医療の質の向上に積極的に貢献する人材を育成する

ため、以下のような指針に基づいて教育課程（カリキュラム）を編成しています。

- 1) 診療放射線技師が身につけるべき倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を重んじる教育を行う。
- 2) 他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、コミュニケーション能力を高めるため、「アセンブリ」をはじめとした本学独自の教育により、多職種連携医療に対応できる人材を育成する。
- 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できるよう、高度な知識と技術を身につけた人材を育成する。
- 4) 診療放射線技術学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる人材を育成する。
- 5) 医療科学における真理の探究心と創造力を養い、医療の発展に貢献でき、なおかつ国際的視野を持った人材を育成する。

3. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

藤田医科大学医療科学部のディプロマポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、卒業要件を満たした学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることとなります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。
- 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
- 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
- 4) 診療放射線技術学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる。
- 5) 医療科学における真理の探究心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野を有する。

放射線学科の教育理念・教育目標について

1. 教育理念

放射線学科は、本学の建学の理念並びに医療科学部の教育理念と教育目標を踏まえ、診療放射線技師として先進医療に寄与できる専門知識、最先端の放射線技術科学を实践できる技量、そして医療人に相応しい人間性を兼ね備えた『心優しいプロフェッショナル』の育成を目指す。

2. 教育目標

- 1) 医療専門職の使命と責任を十分に担える専門的素養を涵養する。
- 2) 医療人として基本的な礼節やコミュニケーション能力、さらにチーム医療の実践に不可欠な他の医療職種との協調性を育む。
- 3) 高度な専門知識と優れた技術が相乗的に発揮される課題解決能力を培う。
- 4) 放射線技術科の発展に寄与する探究心や創造力を引き出す。

3. 教育目標達成のための取り組み

本学建学の理念である『独創一理』と、医療科学部の教育理念に基づき、他の医療専門職と密接に連携・協働するチーム医療の実践により、社会に貢献できる診療放射線技師の育成に努めています。

皆さんが診療放射線技師になるためには、医師や他の医療専門職らと同じく国家試験に合格する必要があります。その受験資格を得るには、本カリキュラムが定める卒業要件単位の取得が必須です。本カリキュラムは医療の目覚ましい進歩と、それに伴う医療技術の変化に柔軟に対応しており、今日の医療に求められる先進の放射線技術科学を十分に網羅しています。これらは学年毎に策定された時間割に従って実施される様々な講義や、実習を体得することによって具現化されていきます。このシラバスには、各授業科目の目的、内容、評価方法・評価基準、履修上の注意点、科目担当教員およびその連絡先等が細かく書かれています。診療放射線技師を目指す皆さんが、大切な学びを開始するにあたって、まずはこのシラバスに目を通し、本学科教育の概要を把握すると同時

に、各学年あるいは4年間の履修についても理解を深めていただきたいと思います。

2023年4月 教務委員会

科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に、学問分野や難易度などを表す番号を付し分類することで、教育課程の体系を分かりやすく明示する仕組みのことです。

2. 目的

- ・学問分野や授業の難易度、学修の段階が判りやすくなり、学生が将来の目標や関心をもって科目選択をすることで、主体的に履修計画を立てることができます。
- ・他大学との比較・連携につながる
他学部や他大学の教育課程の体系の理解にも繋がり、科目の学問分野や位置づけを知ることによって、履修する目的を明確に把握することができます。それにより、海外大学との連携や単位互換の一助・留学後のギャップの解消などグローバル的な効果も期待されます。

3. 科目コードの構成

S C B C 2 15
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

ex 医療科学部－医療検査プログラム共通科目－2022 年度入学者から－専門分野－中級レベルの科目－科目識別コード

① 学部・研究科コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字

その授業科目の解説に最終的に責任を持つ組織名（学部・大学院研究科）もしくは、その授業科目が全学の共通教育科目であるかどうかを示す。

② 学科・専攻コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字

その授業科目が置かれている教育単位を示すもの。このコードは、カリキュラム上の責任組織や教育組織（学科、課程、プログラム、大学院の専攻）、あるいは科目群を示す。

③ カリキュラム年度コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字
教育課程がどの入学年度に対応するかを示す。

④ 分野・領域コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1 文字
カリキュラム上の科目分野や大学院の科目領域を示す。

⑤ 水準コード

表記コード：0～9 文字数制限：1 桁
授業科目の難易度を示す。0～9 までの 10 のレベルに分けて示す。

⑥ 科目識別コード

表記コード：00～99 文字数制限：2 桁
授業科目を識別するもの。00～99 までの数字で表されている。数字の大きさが、その授業の難易度を示すものではない。

4. コード一覧

① 学部・研究科コード

組織・教育プログラム名	コード
学部共通科目	C
医学部	M
医療科学部	S
保健衛生学部	H
大学院 医学研究科	A
大学院 保健学研究科	B

② 学科・専攻コード

学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
医学部	医学科	M
医療科学部	学部内共通科目	G
	医療検査学科 プログラム共通科目	C
	医療検査学科 臨床検査学プログラム	T
	医療検査学科 臨床工学プログラム	E
	放射線学科	R
保健衛生学部	学部内共通科目	G

	看護学科	N
学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
保健衛生学部	看護学科 保健師	H
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	P
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	O
医学研究科	医科学専攻	M
	医学専攻	D
保健学研究科	保健学専攻	M
	保健学専攻 保健学 資格取得	Q
	保健学専攻 看護学	N
	保健学専攻 看護学 資格取得	F
	医療科学専攻	D
学部共通科目	学部共通科目	W

③ カリキュラム年度コード

教育課程該当年度	コード
2021 年度入学者まで	A
2022 年度入学者から	B

④ 分野・領域コード

分野・区分	コード	分野・区分	コード
基礎分野	A	保健学専攻・看護学領域	Q
専門基礎分野	B	保健学専攻・医用放射線科学領域	R
専門分野	C	保健学専攻・リハビリテーション領域	S
自由科目	D	保健学専攻・臨床工学領域	T
未分類	E	保健学専攻・医療経営情報学領域	U
医科学専攻・医科学領域	H	医療科学専攻・共通科目	V
医学専攻・共通科目	I	医療科学専攻・医療検査科学領域	W
医学専攻・基礎医学領域	J	医療科学専攻・放射線科学領域	X
医学専攻・臨床医学領域	K	医療科学専攻・リハビリテーション科学領域	Y
保健学専攻・共通科目	O	医療科学専攻・保健医療科学領域	Z
保健学専攻・臨床検査学領域	P		

⑤ 水準コード

定義	内容	コード
水準で分類のできない科目	・大学入学前に修得すべき内容を扱う科目 ・自由科目	0
学部前半の入門的な科目	・初年次の必修科目を含む、基礎的な教育科目・共通専門基礎科目 ・各学部等で、その専門領域を初めて学ぶ学生のための基礎的な専門科目	1

定義	内容	コード
学部前半の基盤的な科目	・展開的内容を扱う科目 ・基礎の発展・応用レベルの内容を扱う専門科目	2
学部後半の基盤的な科目	・より高度な内容を扱う科目 ・実践的・専門的に高度な内容を扱う専門科目（臨床実習を含む）	3
学部後半の発展的な科目	・学士課程で学習する最終段階の水準の科目 ・応用実習、卒業研究など発展的な専門科目	4
大学院修士課程の発展的な科目（講義科目）	・大学院修士課程を対象とする共通教育科目 ・極めて専門的に高度な内容を扱う大学院修士課程授業科目	5
大学院修士課程の高度な科目（ゼミなどの科目）	・大学院修士課程で学修する最終段階の水準の科目 ・修士研究など発展的な専門科目	6
大学院博士後期課程の科目	・大学院博士課程学生を対象とする科目 ・博士研究など専門的かつ発展的に高度な内容を扱う専門科目	7

⑥ 科目識別コード

上記①～⑤ごとに科目を識別するために 00～99 を付す。

CAP 制について

学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、学修すべき授業科目を精選することで各授業科目について十分な学修時間(1単位当たり必要な45時間)を確保し単位の実質化を図ることを目的とします。

上限単位は、各学科学年に定める教育課程表の進級および卒業に関わる最低単位数に加えて5単位までとします(ただし、自由科目を除き、プラス5単位ないものに関しては最高単位数を上限とする。看護学科は別に示す)。これらを超えて履修登録することはできませんので注意してください。また、成績優秀者(前年度 GPA3.0 以上)へは成績状況に応じ、年間上限単位を超えて緩和します。成績不振者(前年度 GPA1.2 未満)へは学修支援を行い、進級に必要な最低単位数に留める厳格化の措置をとります(2018 年度入学者から適用)。

看護学科の上限単位は、各学年に定める教育課程表の進級に関わる最低単位数に加えて12単位までとします(ただし、自由科目を除く。また、保健師国家試験受験資格※に必要な履修科目についてはこの限りではない)。また、成績優秀者および成績不振者については他学科と同等な対応をとります。

※保健師国家試験受験資格に必要な履修科目はシラバス「看護学科・保健師国家試験受験資格に関して」に記載されています。

GPA について

1. GPA とは

Grade Point Average (グレード・ポイント・アベレージ) の略称であり、成績評価を GP (グレード・ポイント) で置き換え、単位数を掛けたものの総和を総履修登録単位数で割った値です。数値が高いほど良い成績を得ていると言えます。

2. 目的

GPA の活用により、学生の学習意欲を高めるとともに、本学における教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的とします。

3. 利用方法

- ・クラス担任による修学指導に利用します。
- ・年次終了時に当該年度の GPA が 1.0 未満であり、かつ総授業コマ数の 1/3 を超えて欠席している場合は、退学勧告を行うことがある。

4. 評価および GPA

成績の評語、および GP は、次表のとおりとします。

評語	GP (評価点)	100 点満点での評点範囲	評価基準
S	4	100 ～ 90 点	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
A	3	89 ～ 80 点	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
B	2	79 ～ 70 点	到達目標を達成している
C	1	69 ～ 60 点	到達目標を最低限達成している
D	0	60 点未満	到達目標を達成していない
F	0	無資格科目	科目授業時間数の 3 分の 1 を超えて欠席した科目
N	—	認定科目	他大学等で修得した単位を本学において修得したものとみなすと判断された科目

5. GPA の算出式

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの修得単位数} \times 4) + (\text{Aの修得単位数} \times 3) + (\text{Bの修得単位数} \times 2) + (\text{Cの修得単位数} \times 1) + (\text{D,Fの単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数 (D,Fの単位数も含む)}}$$

- ・小数点第2位までの数値で表記
- ・小数点第3位は四捨五入

6. GPA に含まれない科目

- ・卒業要件に含まれない自由科目
- ・本学において修得したものとみなすと判断された認定科目

放射線学科・教育課程

2021, 2020, 2019 年度の入学生(2, 3, 4 学年)には、2019 年度の教育課程に従った授業が行われます。

医療科学部 放射線学科 教育課程

そのー 1

系列分野	授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基 礎 分 野	人間及び社会理解の基盤	生 命 倫 理 学	2	2								卒業要件 8単位以上 必修 2単位 選択 6単位以上
		医 学 史	2	2								
		音 楽 療 法	2	2								
		医 療 心 理 学	2		2							
		教 育 学	2		2							
		文 化 人 類 学	2		2							
		西 洋 文 化 論	2		2							
		スポーツ・健康科学	2		2							
	科学的思考の基盤	数 学 I	2		2							卒業要件 18単位以上 必修 18単位
		数 学 II	2		2							
		物 理 学 I	2		2							
		物 理 学 II	2			2						
		物 理 学 III	1			1						
		生 物 学 I	2		2							
		生 物 学 II	2			2						
		化 学 I	2		2							
		化 学 II	2			2						
		基 礎 科 学 実 験	1			1						
		基 礎 物 理 学 演 習		1	1							
	コミュニケーションの基盤	英 語 I	2		2							卒業要件 10単位以上 必修 10単位
		英 語 II	2		2							
		英 語 III	2				2					
		英 語 IV	1					1				
		英 会 話		1				1				
		ド イ ツ 語	2		2							
		ヒューマンコミュニケーション	1			1						
	合 計		30	16	42	2	2					卒業要件 36単位以上 必修 30単位 選択 6単位以上

医療科学部 放射線学科 教育課程

そのー2

系列分野		授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	人 体 構 造 機 能 学Ⅰ	2		2								卒業要件 13単位以上 必修 12単位 選択 1単位以上
		人 体 構 造 機 能 学Ⅱ	2			2							
		臨 床 生 化 学	1			1							
		病 理 学	1				1						
		公 衆 衛 生 学	1		1								
		臨 床 医 学 概 論Ⅰ	1.5				1.5						
		臨 床 医 学 概 論Ⅱ	1.5				1.5						
		看 護 概 論	1					1					
		救 急 医 学 概 論	1				1						
		薬 理 学 概 論		1			1						
		遺 伝 学		1			1						
		臨 床 免 疫 学		1				1					
小 計		12	3	6		9							
基 礎 分	保健医療福祉における理工学的基礎	応 用 数 学	2				2						卒業要件 9単位以上 必修 9単位
		電 気 工 学	2			2							
		電 気 工 学 実 験	1					1					
		応 用 電 子 工 学Ⅰ	2				2						
		応 用 電 子 工 学Ⅱ	1					1					
		応 用 電 子 工 学 実 験	1						1				
		応 用 統 計 学		1			1						
		医 用 電 子 工 学		1				1					
		医 用 材 料 学		1			1						
		小 計		9	3	2		9		1			
野	放射線の科学・技術	放 射 線 物 理 学	3				3						卒業要件 10単位 必修 10単位
		放 射 化 学	2				2						
		放 射 化 学 実 験	1					1					
		放 射 線 計 測 学	2				2						
		放 射 線 計 測 学 実 験	1						1				
		放 射 線 生 物 学	1				1						
		小 計		10				9		1			
合 計		31	6	8		27		2				卒業要件 32単位以上 必修 31単位 選択 1単位以上	

医療科学部 放射線学科 教育課程

そのー3

系列分野	授 業 科 目	単位数		1 年		2 年		3 年		4 年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	診療画像技術学	診療画像学概論	2				2					卒業要件 17.5単位 必修 17.5単位
		診療画像技術学Ⅰ	3					3				
		診療画像技術学Ⅱ	2						2			
		診療画像技術学Ⅲ	1					1				
		画像解剖学	1			1						
		磁気共鳴論	2					2				
		画像診断機器工学Ⅰ	1.5			1.5						
		画像診断機器工学Ⅱ	1.5				1.5					
		画像診断機器工学Ⅲ	1.5					1.5				
		画像診断機器工学実験	1					1				
		放射線機器管理工学	1						1			
		小 計	17.5			6		11.5				
	核医学検査	核医学概論	1.5				1.5					卒業要件 6単位 必修 6単位
		核医学検査技術学	3					3				
		核医学機器工学	1.5				1.5					
		小 計	6			3		3				
	放射線治療	放射線治療学概論	1.5				1.5					卒業要件 6単位 必修 6単位
		放射線治療技術学	3					3				
		放射線治療機器工学	1.5				1.5					
		小 計	6			3		3				
	医用画像情報学	情報科学概論	1		1							卒業要件 6単位 必修 6単位
		放射線画像工学	1			1						
		放射線画像工学実験	1				1					
		医用画像工学	1					1				
		画像情報学	1				1					
		画像情報学実験	1					1				
		小 計	6		1	3		2				
	安全放射線学	放射線保健管理学	1					1				卒業要件 5単位以上 必修 4単位 選択 1単位以上
		放射線保健管理学実験	1					1				
		放射線衛生学	1				1					
		放射線関係法規	1					1				
		放射線施設管理学		1				1				
		放射性廃棄物処理論		1				1				
		小 計	4	2		1		5				
	医療安全管理学	医療安全管理学	1					1				卒業要件 必修 1単位
	臨床実習	早期臨床実習	0.5		0.5							卒業要件 12.5単位 必修 12.5単位
		臨床基礎実習	2					2				
		臨床実習	10						9	1		
		小 計	12.5		0.5			11		1		
	総合放射線学	放射線医学概論	1		1							卒業要件 5単位 必修 5単位
		診療放射線技術学特論	1							1		
		総合放射線技術学Ⅰ	1							1		
		総合放射線技術学Ⅱ	2								2	
		小 計	5		1						4	
	卒業研究	卒業研究	4								4	卒業要件 必修 4単位
	合 計		62	2	2.5	16		36.5		9		卒業要件 63単位以上 必修 62単位 選択 1単位以上
総 合 計			123	24	52.5	45		40.5		9		卒業要件 131単位以上 必修 123単位 選択 8単位以上

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

系列分野	授 業 科 目	単位数		1年		2年		3年		4年		備 考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自由科目	産 業 医 学		2					2				※
	健 康 食 品 概 論		2					2				
	食 品 衛 生 学		2					2				
	食 品 衛 生 関 係 法 規		1							1		
	労働衛生及び衛生工学		2				2					
	労 働 安 全 衛 生 法		3			3						
	労 働 基 準 法		1			1						
	医 療 事 務 概 論		1					1				
	インターンシップ		2	2		2		2		2		
	国 際 医 学 概 論		1	1								
	再 生 医 療 技 術 学		1					1				

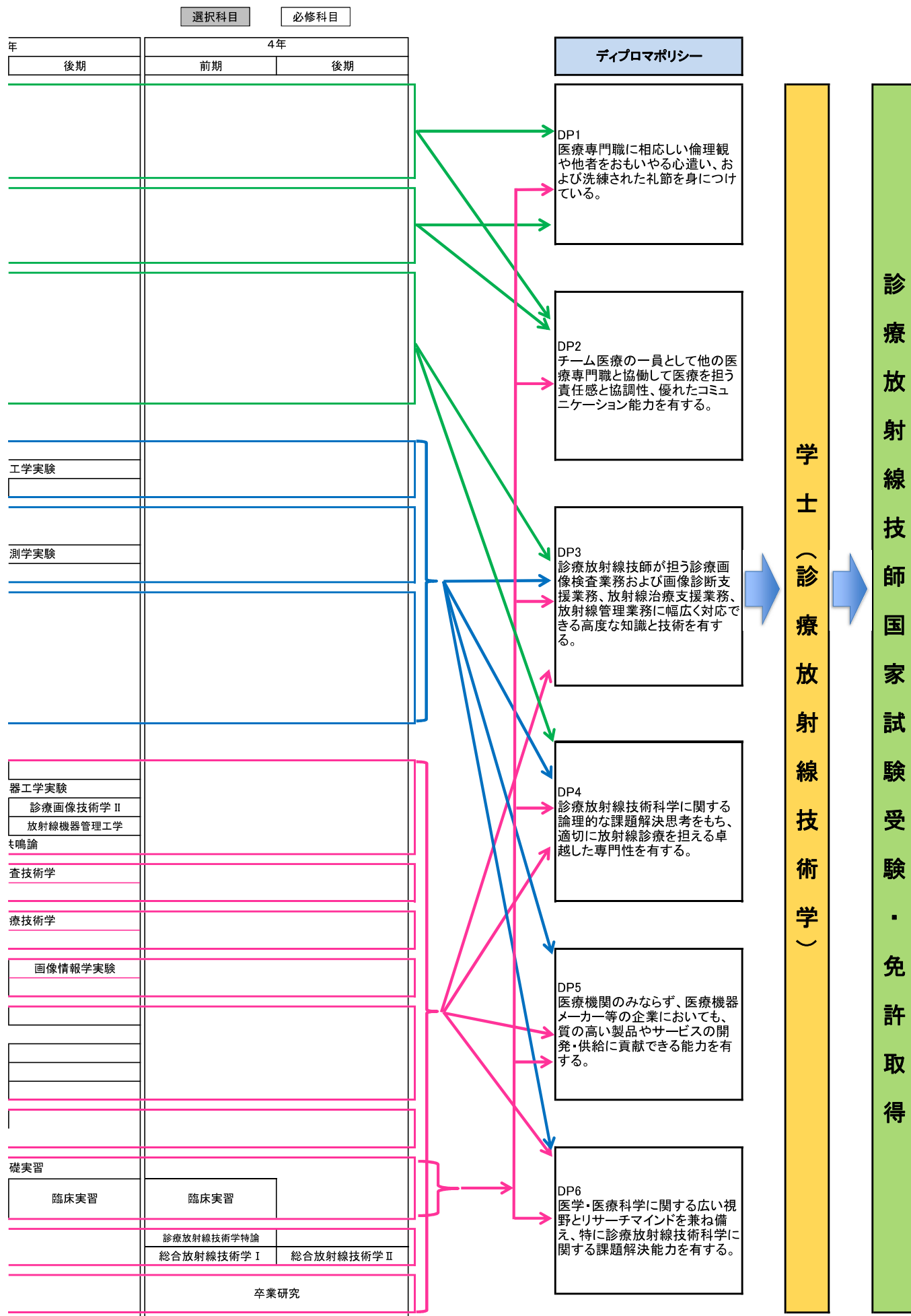
※：いずれかの学年で履修する。

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

(注) 自由科目の修得単位は卒業資格必要単位に含めない。

医療科学部 放射線学科 履修系統図

		1年		2年		3年
		前期	後期	前期	後期	前期
基礎分野	人間及び社会理解の基盤	生命倫理学	医療心理学			
		医学史	教育学			
		音楽療法	文化人類学			
		西洋文化論				
		スポーツ・健康科学				
	コミュニケーション技法の基盤	英語Ⅰ		英語Ⅲ		英語Ⅳ
		英語Ⅱ				英会話
		ドイツ語				
		ヒューマンコミュニケーション				
	科学的思考の基盤	数学Ⅰ				
		数学Ⅱ				
		物理学Ⅰ	物理学Ⅱ			
		基礎物理学演習	物理学Ⅲ			
		生物学Ⅰ	生物学Ⅱ			
		化学Ⅰ	化学Ⅱ			
		基礎科学実験				
専門基礎分野	保健医療福祉における理工学的基盤	電気工学		応用数学	電気工学実験	
				応用電子工学Ⅰ	応用電子工学Ⅱ	応用電子
				応用統計学	医用電子工学	医用材料学
	放射線の科学・技術			放射線物理学		
				放射化学	放射化学実験	
				放射線計測学		放射線計
	人体の構造と機能および疾病の成り立ち	人体構造機能学Ⅰ	人体構造機能学Ⅱ	病理学	臨床免疫学	
		公衆衛生学	臨床生化学	臨床医学概論Ⅰ		
				臨床医学概論Ⅱ		
				看護概論		
				救急医学概論		
				薬理学概論		
				遺伝学		
専門分野	診療画像技術学			画像解剖学	診療画像学概論	画像診断機器工学Ⅲ
				画像診断機器工学Ⅰ	画像診断機器工学Ⅱ	画像診断機
						診療画像技術学Ⅰ
						診療画像技術学Ⅲ
	核医学検査技術学			核医学概論		核医学検
				核医学機器工学		
	放射線治療技術学			放射線治療学概論		放射線治
				放射線治療機器工学		
	医用画像情報学	情報科学概論		放射線画像工学	放射線画像工学実験	医用画像工学
				画像情報学		
	放射線安全管理学			放射線衛生学		放射線保健管理学
						放射線関係法規
						放射線施設設計学
						放射性廃棄物処理論
	医療安全管理学					医療安全管理学
	臨床実習					臨床基
		早期臨床実習				
	総合放射線技術学	放射線医学概論				
	卒業研究					



シラバスを読むにあたって

1. シラバスの構成について

シラバスは授業科目の学修内容を示した学修のためのガイドである。

授業科目ごとに学修内容の概要や学修により学生に到達して欲しい目標が示され、その到達度をどのような方法で、どのように評価するかを示している。評価結果についてどのように学生へフィードバックするかも示される。授業は複数回に渡って実施されるので、毎回どのような進捗で授業するか、さらに、講義、演習、実習など授業形態や具体的な実施手法(グループワーク、アクティブラーニングなど)も示している。授業で使用する教科書や参考書、受講するにあたっての注意事項も示されるので、事前に熟読のうえ準備を整えること。

2. シラバスの提供方法

医療科学部・保健衛生学部のシラバスは Web シラバス (World Wide Web を利用した Web ページで提供されるシラバス) により提供される。学生諸君は、パソコン、スマートフォンなどの Web ブラウザにて下記の URI にアクセスし、閲覧すること。

- 放射線学科 1年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2022/gakubu/120/gakka/43/gakunen/1/>
- 放射線学科 2年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2022/gakubu/120/gakka/43/gakunen/2/>
- 放射線学科 3年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2022/gakubu/120/gakka/43/gakunen/3/>
- 放射線学科 4年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2022/gakubu/120/gakka/43/gakunen/4/>

Web シラバスの URI は、「医療科学部・保健衛生学部学生ポータル」や「藤田学園 Web ページの『在学生の方』ページ」にもリンクを掲載している。

- 医療科学部・保健衛生学部 学生ポータル
<https://www.shs.fujita-hu.ac.jp/>
- 藤田学園 Web ページ「在学生の方」ページ
<https://www.fujita-hu.ac.jp/students/>

3. シラバスの各項目について

シラバスに記載される項目について説明する。

● 科目名

Web シラバスの上位中央に表示される。

1授業科目のシラバスは1ページにまとめて表示される。

必修・選択の別、単位数、開講時期の別(全期前期・後期)も掲載している。

● 科目概要

授業科目の概要を説明する。授業科目で何を学ぶのか、その意義、関連する科目について担当教員から学生へのメッセージとして記載してある。

また、医療機関や企業などで実務経験のある教員が担当する科目の場合、その旨を記載している。

● 到達目標

授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を記載してある。到達目標は複数の項目に分けて記載しており、それぞれの到達目標を意識して受講すること。

また、授業を終えた後には、この到達目標に対する到達度の自己評価を行い、学修成果可視化システム(アセスメンター)に入力して、自己の学修状況を管理・分析できるようにしている。

● 評価法

授業科目の成績(評価点)は到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポートなど)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を記載してある。

複数の教員が評価する場合は、教員間の配分も示す。通年科目では、前期と後期の評価配分を記載する場合もある。

授業科目によっては評価に関する特別な注意点、ルール等が記載される場合があるので留意すること。

● 基準

到達目標に対してどの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを記載してある。

● フィードバック

評価のために実施した試験やレポートなどの評価結果を履修者へフィードバックする方法について記載してある。定期試験結果に対するフィードバックには、医療科学部・保健衛生学部 e ラーニング(Moodle)を利用する場合がある。

- **教科書**

授業で使用する教科書を記載してある。授業に臨む前に必ず購入すること。

- **教材参考書**

授業で用いる教材、参考書を記載してある。予習、復習のため、より学修を深めるためには参考書の利用を薦める。

- **連絡先**

授業に関する質問や問い合わせ等で電子メールや内線の利用を許可する場合は、電子メールアドレスと内線番号を記載してある。

- **講義形式**

授業の実施形態が「講義」、「演習」、「実習」、「実験」、「実技」のうちどれに該当するかを記載してある。授業によっては複数を組み合わせている場合がある。

- **形式内容**

授業で用いられる具体的な実施形式を記載している。特にアクティブラーニングを採用する授業では、「TBL」(Team-based Learning)、「PBL」(Problem-based Learning)、「反転授業」、「ディスカッション・ディベート」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「ICT 活用」のいずれの実施形式が利用されるかを明記している。具体的内容については『形式内容説明』の項目を参照すること。

- **事前事後学修時間**

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)に必要な時間を示している。大学設置基準第 21 条において、1 単位の授業科目に必要な全学修時間は 45 時間とされており、大学における 1 時限(1 コマ)の授業の学修時間は 2 時間に相当する。よって、大学において授業を受けた時間だけでは 45 時間には達しない場合がある。そのような授業科目の到達目標は、残りの学修時間分を学生自らが授業時間外で事前学修・事後学修することを想定し、設定されている。

- **事前事後学修内容**

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)について、具体的な学修内容や学修の指示を記載している。事前学修・事後学修に医療科学部・保健衛生学部 e ラーニングを利用する場合がある。

履修にあたっては遵守すること。

- **履修上の注意点**

授業を受ける上での指示(持参する文房具、ノートに関する指示など)が記載される場合があるので、よく確認すること。

その他には、学修の心構えや私語に関する注意、資格試験に関する事項等、様々な注意点が記載される。

- **実務経験科目**

医療機関や企業などで実務経験のある教員により授業が実施される授業科目の場合、本項目に「該当」と表示している。

- **形式内容説明**

『形式内容』に示された授業形式について、具体的にどのような方法・内容で授業が実施されるのか概要を説明している。

- **科目責任者**

授業科目の最終的な成績評価の責任者である。

- **担当教員・オフィスアワー**

授業科目を担当する教員と、各教員が授業に関する質問などを受付ける特定の曜日・時間帯・場所を記載してある。設定されたオフィスアワーにて教員に質問する場合は、事前連絡は不要である。事前に連絡が必要な場合は『**連絡先**』に記載される場合があるので考慮すること。

- **授業日程**

No.	授業回数
開講	授業を実施する月日・曜日・時限 ※予定
種別	講義・演習・実習・実験の別
担当者名	当日の授業を担当する教員名
到達目標	授業のテーマ、授業内容の詳細について記載
使用教室	授業を実施する場所（部屋）

なお、1つの授業科目を複数グループに分けて別日程で実施する場合は、複数の授業日程が記載される。自分がどのグループに該当するかは、担当教員の指示に従うこと。

3. 注意事項

- 授業科目によっては「2. シラバスの各項目について」に示した項目以外に、独自に授業に関する情報が提供される場合がある。
- 「授業日程」の「開講」に掲載される月日・時限はシラバス編集時点の実施予定のため、実際の曜日・時限は変更される場合がある。授業日程変更について必ず掲示板などで確認すること。
- 指定された教科書以外に図書、教材の購入が必要な場合がある。担当教員の指示に従うこと。

